



ネクストコモンズラボ 南相馬

活動報告



2020年度

ごあいさつ

Next Commons Lab 南相馬は、移住者を募り、
南相馬に拠点を移したメンバーとともに
地域の課題や資源に焦点をあてたプロジェクトを推進する、南相馬市の事業です。
南相馬市民のみなさまのご支援・ご協力を賜り、
Next Commons Lab 南相馬事業も5年目を迎えました。

1年目の資源・課題のリサーチから事務局メンバーの募集・着任、
2年目からの起業家募集・着任、
起業に向けた各プロジェクトの推進や地域の方との交流など、
拙いながらも歩んできた道のりを振り返ると、
決して平坦ではなかったことが思い出されます。
壁や課題にぶつかる度、事業コンセプトである
「予測不能な未来を楽しもう」を大切にしつつ
向き合ってきたことが少しずつ形となり、
市民のみなさまにもお伝えできることが増えてまいりました。

この冊子では、地域おこし協力隊として移住した
9名のメンバーが推進するプロジェクトの活動報告と、
今後の展望についてお伝えします。



CONTENTS

目次

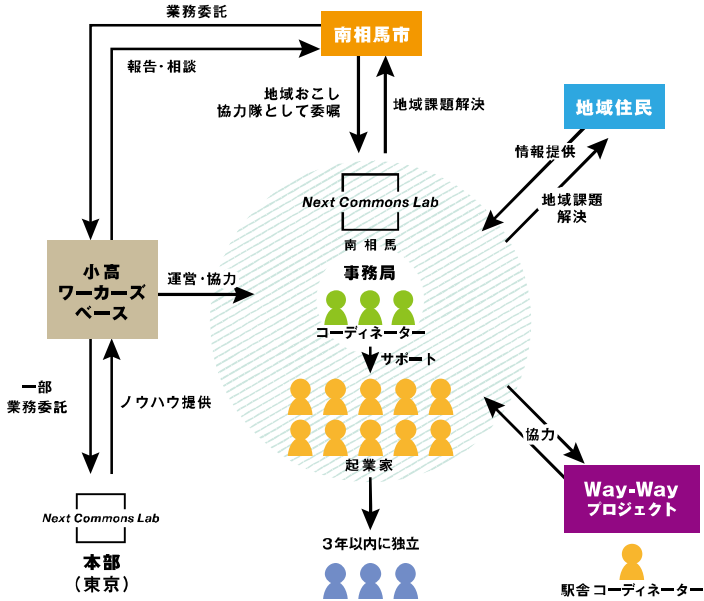
ごあいさつ	2
目次	3
NCL 南相馬とは	4
プロジェクト/ラボメンバーインタビュー	
 01 Horse Sharing 神 瑛一郎	6
 02 Mobile Aromatherapy Salon 水谷 祐子	8
 03 Local Marketer 高田 江美子	10
 04 Local System Engineer 塚本 真也	12
 05 Artviva 西山 里佳	14
 06 haccoba -Craft Sake Brewery- 佐藤 太亮・立川 哲之	16
 07 Surfers Village 一関 宙	18
 08 Way-Way 菅野 真人	20
 09 コーディネーター 井上 雄大	22
沿革	24
活動拠点(小高バイオニアヴィレッジ)紹介	25
編集後記・そのほかの情報	26

予測 不能な未来を楽しもう

今、わたしたちは予測不能な未来に向かって生きている。
だからこそ、先の見えない不安よりも、
限りない可能性を楽しみ、想像力と実践をもって、
望ましい未来をつくっていききたい。
だれもがアイデアをカタチにし、挑戦できる場をつくる。
ひとつひとつの行動が次世代へと続き、新たな社会への道筋となっていく。
この予測不能な未来を楽しもう。
自分たちの手で未来を発明しよう。

Next Commons Lab 南相馬（以下 NCL 南相馬）とは、全国で地域おこし協力隊を活用したプロジェクトを推進している一般社団法人 Next Commons Lab と協働し、地域課題の解決や地域資源の活用を目指したプロジェクトを推進する、南相馬市の事業です。
具体的には、生産年齢人口の流出や空き家・空き地などの

増加といった地域の課題の解決と、商売が両立する持続可能な“なりわい”をつくることを目指しています。
プロジェクトを推進する起業家（ラボメンバー）と、起業家の活動を支援し事務局を運営するコーディネーターで構成され、全員市外から移住して南相馬に拠点をもち活動しています。



NCL 南相馬についての疑問にお答えします！

- Q1** 「起業型地域おこし協力隊」と「地域おこし協力隊」の違いとは？

A1 「地域おこし協力隊」は、主に自治体が定めた特定の事業に取り込むことが多く、市の契約職員などになる場合が多数です。その反面、「起業型地域おこし協力隊」は、隊員が自由にやりたい事業に独立して取り組み、市から委嘱を受けて個人事業主として活動するケースが多くなります。
- Q2** ラボメンバーやコーディネーターは3年間の任期満了後、NCLとのかわりはないのか？

A2 協力隊の任期終了後も、NCL南相馬の拠点である小高バイオエナヴィレッジを活用することにより、3年間培ってきたノウハウを生かしながら、他の協力隊のプロジェクト等との関わりを検討していきます。さらに、全国のNCLネットワークを活用し、他地域とのコラボプロジェクトを模索していきます。
- Q3** 小高ワークスペースとNCLってどういう関係なの？

A3 NCL南相馬事業を南相馬市から受託している企業が、株式会社小高ワークスペースです。NCL南相馬の事務局をコーディネーターと協力して運営しており、ワークスペースの提供や地域とのつながり、メンバーの伴走などを担っています。
- Q4** NCL南相馬と他の地域のNCLの違いは？

A4 拠点ごとに運営方法は違いますが、NCL南相馬は現地企業の株式会社小高ワークスペースが運営に協力している点が他拠点と大きく違います。コーディネーターの範囲が広がったり、地域とのつながりがより強固になるなど、目的を共有している現地企業と協力することで、できる支援の幅が広がります。
- Q5** NCL南相馬は一体何をしているの？

A5 起業家の活動の支援を通して、地域の振興・発展に寄与します。具体的には、地域課題の解決や地域資源の活用をフォーカスしたプロジェクトの設計、起業家の募集・採用、起業家の責任・活動・広報サポート、地域とのつながり、他企業との連携などが主な業務です。
- Q6** どういう基準で起業家の採用を決めているの？

A6 応募の段階で事業企画書を提出いただき、事業を通して実現したいビジョンが明確にあることや、具体性、起業家自身がそのプランを実現する必然性などを見て選考しています。面談では、「楽観的である」「ビジョンを伝えられる」などの基準で、事業に臨む姿勢を見て採用の判断をしています。



“馬のまち”南相馬で、
馬を身近に感じられる体験や
観光コンテンツづくり。

Horse Sharing

プロジェクト【2019年12月着任】

神 瑛一郎

じん・よういちろう

南相馬市でもっとも有名な伝統祭礼、相馬野馬追のために市内では多くの馬が飼われています。そんな馬たちに祭礼以外の場でも活躍してもらい、馬と市民がより身近になれるまちを目指し、活動中です。現在は大きく2つの事業に取り組んでいます。

一つ目は乗用馬調教代行サービスです。市内で馬を飼っている方の多くが他の仕事をしながら飼育をしているため、なかなか調教に時間がとれない方がほとんどです。そこで、国内外で調教の経験がある私が、馬を飼っている家にお伺いし調教をしています。現在まで2件5頭の調教を請け負い、お客様からは「普段、時間が取れずに乗れないので助かる」という感想をいただいています。

二つ目は今年度開始予定の「小高うまさんぽ」というまちなか乗馬サービスです。昨年に一般社団法人 Horse Value を立ち上げ、会社で一頭馬を購入しました。名前はワタリセイユウ（通称：ワタリン）と言います。現在、ワタリンの調教と並行して小高駅前での試乗をしており、

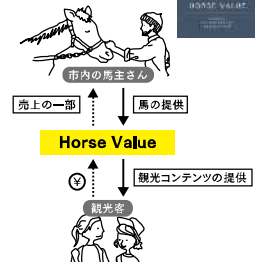
将来的には市内の馬とも協力しながら、まちなかで乗馬をして観光名所を回ったりといった、観光コンテンツづくりをしていきます。コロナ禍においてのワーケーション利用のニーズが高まる中で、過年で楽しめる観光コンテンツが少ないと思い、この事業づくりに取り組み始めました。

ワーケーションや地域留学で南相馬にいらっしゃった方々に、試験的に乗馬の機会や馬との触れ合いを提供したのですが、「馬のまちで馬に乗ったという体験に特別感を持った」という嬉しいお声もいただいております。これから、より多くの人に特別な体験を提供できることが、とても楽しみです。

今後は、「馬と市民が身近になれるまち」を見据え、長期的な視点で、南相馬に住む方々の課題を馬を活用して解決できる事業づくりに取り組んでいきます。前例のない事業でも果敢に挑戦して、まずは自分がワクワクしながら動いていきます。



BUSINESS MODEL ビジネスモデル



PROFILE プロフィール

1995年東京都生まれ、
2008年金日本Jr.陸上優勝。
2009年・2010年国民
体育大会出場。2013年日
韓両国大会日本代表。
2016年埼玉インカレ
個人2位、W杯予選4位。
大学卒業後ドイツへ（試
合出場、若手の腕前で
従事）2019年帰国、
乗用馬調教代行事業開始。
NCL 南相馬にジョイン、
南相馬市へ移住。

SUPPORTER'S COMMENT 応援者コメント



中澤 巧さん
（相馬教習所スタッフ）
早いもので神君がNCLに着任し2年目ですね。お互い地域外から来たよそ者ですがよそ者の力を発揮していきましょう！
神君が掲げているミッションは私が所属する相馬教習所の活動内容と共通している部分があります。
今後お互いに協力し目標実現のため邁進していきましょう！

オーダーメイドのアロマと施術で、
人生最期の時まで
幸せに暮らせる社会。

Mobile Aromatherapy Salon

プロジェクト【2019年2月着任】

水谷 祐子
みずたに・ゆうこ

最新情報はこちら



PROFILE
プロフィール

東京都山形、大学卒業後、一級企業に勤務。祖母の死を機にアロマセラピストを志す。2013年から5年間、介護アロマセラピストとして都内老人ホームでアロマトリートメント（マッサージ）を行う。モットーは「アロマは運命、大切なのは心」。英国IFA認定アロマセラピスト。

BUSINESS MODEL
ビジネスモデル



SUPPORTER'S COMMENT
応援者コメント

奇形市社会福祉協議会
地域包括支援センター
（原町西地域）の皆さん



介護者がホッと息づけて、思い出に残る機会を作りたい。そんな想いで介護者同士が交流できる場の講師をお願いしたのが水谷さんとの出会いでした。水谷さんが響き出す癒しの雰囲気や香りを感じた時、ふっと緊張を思い出す。そんな「一瞬」でも介護者の心を解放できる場をこれからも一緒に作っていきましょう！



私が進めるプロジェクトの目標は、トリートメント（施術）や講習会、商品など様々な形態でアロマを届けることで、地域の方のストレス解放と心身の健康づくりに貢献することです。これまで「地域の人々の心に寄り添い、ささやかな幸せを届ける」をテーマに、3つの事業を行ってきました。一つ目は、高齢者介護を中心とした社会福祉事業です。デイサービスなどの高齢者福祉施設を訪問し施術を行いました。また、ご家庭を自宅に介護する方に向けアロマ講習会を開催しました。店まで足を運ばない方のように、社会との繋がりが希薄になりがちな方が、安心して暮らし続けられる地域づくりを目的としています。

二つ目は、公共施設や新商品の香りのプロデュース事業です。公共施設では快適に利用していただくために、独自に調合したアロマオイルを設置しました。また、ガラスアクセサリーとのコラボ企画の商品開発を行い、日常でアロマに触れていただく機会の幅を増やすことにも取り組みました。

三つ目は、Eコマース、超小規模店舗の運営などのスモールビジネス事業です。この事業は新型コロナウイルスの感染拡大により、社会福祉事業を継続させることが難しくなっ

たため、今年度から新しくチャレンジした事業です。人と会ってふれあう事ができなくなり、全てを奪われたように感じました。しかし、自分の技術と手元にある資源の活用、お世話になっている地元の方々のご支援により、新たな道を模索しながら活動を続けることが出来たのです。着任から2年間のべ1,000名近くのお客様と接してきました。実際に施術を受けたお客様からは「震災で生活が一変したあの時から10年経って、まさか地元でアロマを受けられる日がくるなんて」など、ご好評の声をいただきました。今後は個人だけでなく企業にも目を向けて、地元企業の発展に貢献できるようなアロマ関連の商品やサービスの開発にも力を注いでいきたいですね。

アロマの技術も地域からの信頼も、0の状態からいきなり100にはなりません。「地道に小さなことを積み重ねる」コツコツと毎日少しずつ土を耕し、種を蒔いて芽を大切に育てれば、やがて大きな実を収穫できるはずだと信じ、これからも活動していきます。事業を通して、日常の中に小さな幸せを感じられる人、ちょっといい暮らしを楽しめる人をこの街相馬に増やしていきたいです。



魅力的なヒト・モノ・コトいっぱい、南相馬。
販促・PR のチカラで
「やりたい・なりたい」の実現に伴走。

Local Marketer

プロジェクト【2019年4月着任】

高田江美子

ただだ・えみこ

地域における多様な“ヒト・モノ・コト”に対し、マーケティングやプロモーションを通して集客や売上や認知度の向上・活性化に寄与していくことが、私の事業の目標です。

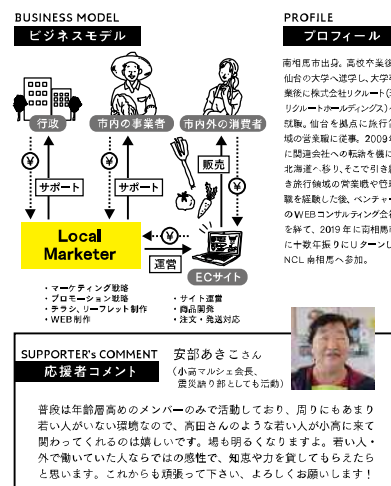
旅行情報誌の広告や WEB プロモーションなどに携わってきた経験を生かし、1 年目、2 年目は様々な活動や事業に取り組みさせていただきました。これまで関わらせていただいた事業は、ふるさと納税の WEB サイト画面改善や、南相馬の観光情報・お米・南相馬の地酒「御陣」のパンフレットやリーフレット制作の進行管理・窓口業務、地域を紹介する WEB メディアの記事における取材・ライティング、画廊の調査事業のサポート、地域の農家さんが中心となる団体の WEB や SNS を活用した情報発信サポートなど、多岐に渡ります。

南相馬で素晴らしい取り組みをされている方々・熱い思いを持って事業を行っている方々にお仕事を通じてお会い出来るのが毎回とても嬉しいです。制作において、

コンセプトをもとに写真撮影や文章ライティングを行います。「自分たちでは気付かなかった部分が魅力になるんだ」「こんなにも強みになるんだね」というお声をいただくこともあり、その時は、新たな魅力を引き出すお手伝いが出来たのだと実感します。

今後は、これまでの活動を集約し具現化することを目指し、南相馬の“ヒト・モノ・コト”を地域内外と繋ぐための情報プラットフォームになる WEB サイトと商品販売する EC サイトをこの春より立ち上げ、運営に携わる予定です。そのサイトに沢山の情報を集め発信し、南相馬の認知度向上にも繋げていきたいと考えています。また、参画事業者様の商品開発やブランディングのお手伝い、販促ツールの制作なども関わらせて頂きながら、磨き上げや新商品開発などのお手伝いもしていきたいです。

地域内・地域外から、物品の流通だけでなく人の行き来が活発な地域になることを目指し、自分の事業が間接的にでも小さくでも、そこに貢献していけたら幸いです。





地域の困りごとから
世界初のイノベーションまで、
IT技術をあらゆるものに活かす。

Local System Engineer

プロジェクト【2020年5月着任】

塚本真也

つかもと・しんや

「地域のシステムエンジニア」として、地域にテクノロジーを実装していくことで地方の課題解決のアプローチやスピードに変化を起こすことを目的に、インドネシアから移住して活動しています。

これまでの、大きく3つの事業を行ってきました。

一つ目は、地元企業・団体のデジタルマーケティングやWEB制作支援です。例えば、いま事務所をお借りしている小高工房さんは、小高産のとうがらしを栽培し販売されており、そのECサイトの改善・運営やSNSの運用などをお手伝いさせていただいています。

二つ目は、IT企業の小高への誘致、サテライトオフィス運営です。システムエンジニアは、PCとネット環境さえあれば基本的にはどこでも仕事のできる職種なため、仕事を変えずとも地域に住むことが可能です。震災や原発事故があったからこそ余白が多い南相馬では、NCLの他のプロジェクトも含め様々な事業が立ち上がりつつあります。そんな環境で刺激を受けながら働きたいシステ

ムエンジニアの受け皿を用意し、小高で活動するサポートをしています。実際に1社2名を誘致し、2021年4月以降もう1社の誘致を予定しています。

三つ目は、地域外企業へのITコンサルティング事業です。長らくIT業界で働いて培われたIT関連の人脈を活かし、地域での仕事づくりに挑戦しています。コンサルティング業務を請け負い、地域にいるシステムエンジニアを育成しつつ業務を担ってもらうことで、地域でもIT企業が持続する仕組みづくりを目指しています。

今後は、主に小高区にシステムエンジニアが増えることで、地域課題をITで解決する風土を創り出したいと思っています。人口減少や高齢化が日本全体で進む中、テクノロジーの力を借りないと解決できないことも多くあると感じます。「ITは世界を救える」というキーワードを持って、ITを利用した課題解決のフロンティアを、ここ小高から作っていきます。



PROFILE

プロフィール

1971年東京都生まれ。大学卒業後、システム会社で働く。その後はフリーランスのプログラマー。2度の海外海外協働（パラグアイ、ルワンダ）にて現地のシステム構築。東京にてIT企業取締役、中国上海にて子会社立ち上げ、インドネシアにて日系企業IT部門マネージャを経て小高で地域おこし協力隊へ、2020年11月Odaka Tech Corp.設立。

SUPPORTER'S COMMENT

山内琢真さん
(アジアクエスト株式会社
小高拠点リーダー)

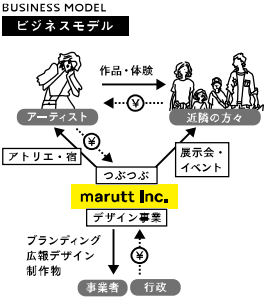


小高の話を伺ってから約半年、各種ご協力もあり、無事弊社の新たな拠点をここでスタートさせることができました。同じIT産業で地元根ざして活動されている方がいることは、ヒト・モノ・場所、様々な面で、心強いなと感じています。今後とも、地方での新たなITビジネスの探求をともに進めていきましょう。

デザインとアートをより身近に。
南相馬のクリエイティブを育て、
まちに根付くまで。

Artviva
プロジェクト【2018年4月着任】

西山里佳
にしやま・りか



PROFILE
プロフィール

富岡町出身、高校卒業後、上京しグラフィックデザイナーとして、音楽、アパレル、出版などのデザインに携わる。2017年にフリーランスの活動を始め、2018年に「アート・デザイン」をテーマにNCL南相馬にジョイン。2020年2月に法人化しmarutt（マルツ）株式会社を設立。ラボメンバーになる。活版屋を中心に活動している。

SUPPORTER'S COMMENT
応援者コメント

小林友子さん
(京浜東北線・女将)

富岡から、小高に移り住み、皆んなで集まれる拠点を自ら作っている里佳さんは、とても力強く、頼りになります。厚原海岸の岸壁に地元の人の思いを描いた絵を、企画して実現させた事は、見事でした。ショップ希求の企画も、受けてくれました。そんな若さの力を借りて、これからも一緒に進みたいですね。



南相馬市を、豊かな文化と表現者が溢れ、緩やかに互いを認め合える地域にすることを目指し、「デザインやクリエイティブを身近に」を事業のテーマに掲げ、活動しています。

着任当初はコーディネーターとして、ラボメンバーの募集や、サポートをする業務を担っていましたが、厚原海岸アートプロジェクトに関わった経験等から、地域におけるクリエイティブの役割と可能性を実感しました。また、グラフィックデザイナーとしてお仕事をいただく機会も増え、デザイン業の必要性も多大に感じ、2020年にデザイン事務所を開業。現在はコーディネーター業務ではなく、自分のプロジェクトに取り組んでいます。

これまで、南相馬市サポーター会報誌『ミナソウマガジン』の企画・アートディレクション・デザイン、観光パンフレット制作といった、南相馬・いわきをはじめとする広報デザイン制作事業に関わらせていただきました。「デザイン」やデザイナーへの必要性や効果が伝わらない場面もあり、悔しい思いをしたこともあります。しかし、

皆さんの生活に溢れている「デザイン」に目を向けてもらうため、なるべく丁寧に意匠の説明し、わかりやすく良質なものを提供することを心がけています。そうすることで、より多くの方に企業や商品、地域の魅力と価値を伝えていきたいと思っています。実際に「ミナソウマガジン」を見てサーフィンを始め、南相馬に通っているという方に出会い、やっていて良かったと救われる気持ちでした。

小高区の境内に新拠点「表現からつながる家『つぶつぶ』」を構え、アトリエギャラリーとしての運営や、相談しやすいデザイン事務所として、5月にオープンする予定です。今後は、アーティストやクリエイターは遠い才能や存在ではないことを伝え、みなさんひとりひとりが持っているものを、表現するきっかけに出会い、体験してもらい、ような場づくりやイベントを行っていききたいです。

良し悪しや評価ではなく、事業でも絵画でも、それぞれの人が「表現」する世界を認め合い、応援しあえる地域になっていければと考えています。

南相馬で1000年続く酒蔵を。
食と酒を通じて、
社会課題へ想いを馳せる場づくり。

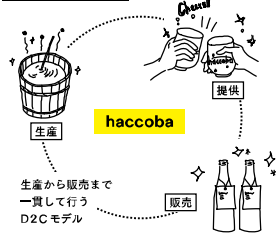
haccoba
- Craft Sake Brewery- プロジェクト

佐藤太亮【2019年4月着任】
さとう・たいすけ

立川哲之【2020年8月着任】
たちかわ・てつゆき



BUSINESS MODEL
ビジネスモデル



SUPPORTER's COMMENT

応援者コメント

松本森雄さん
(同じ行状と
お世話になっている方)

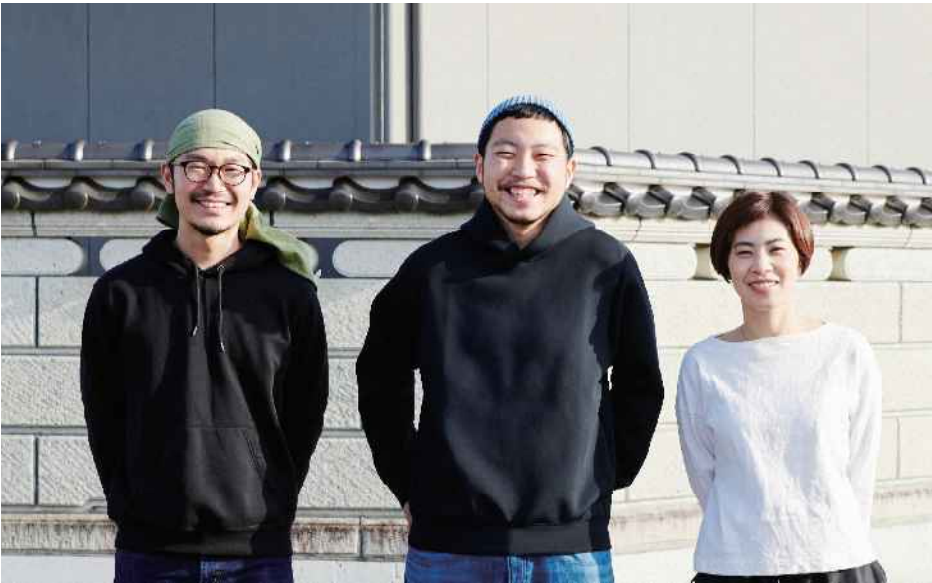


まず、この地域で事業を始めると聞いて、本当に嬉しかったです。ここで新しく商売をやる人がいると思っていなかったですし、しかも地元の人ではない若者だったので、「本当に!?」って驚きました。若い人をいっぱい集めて、地元の人も刺激をもらいながらうまく溶け合って、みんなが成長していく場をつくって欲しいです。

PROFILE
プロフィール

佐藤太亮
1992年3月11日生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。新卒での楽天株式会社を経て、フォントリィ株式会社に入社。セールス組織の立ち上げや営業戦略・自営店舗とのアライアンス業務を担当し、マザーズ上場を経験。その後酒づくりの道へ進むため独立。同部酒造での修行を経て、2020年2月haccobaを設立。

立川哲之
1993年12月26日生まれ。筑波大学生命環境学部卒。学生時代に1万人規模の日本語イベント(食と酒東北祭り)を立ち上げ、新卒で入社した株式会社ユーグレナを2017年に退社後、今は新潟県内取市の佐々木酒造店で酒造りを学び、現在は全国の酒蔵を巡る生活をスタート。2020年8月から醸造責任者としてhaccobaに参画。



発酵文化とソーシャルイシューを身近に感じる「Craft Sake」のD2Cブランド、1000年続く酒蔵を地域につくことを目標に掲げ、haccoba(はっこば)という屋号で活動中です。

酒蔵の立ち上げに向けて、これまで様々な活動を行ってきました。

佐藤が着任して最初の一年は、酒づくりを学ぶため新潟県の酒蔵へ。修行を終えて南相馬に戻ってきたからは、この地に一から酒蔵を立ち上げるべく、物件探しや事業に参画してくれる仲間探しを行ってきました。もうひとりのメンバーである立川がジョインし、チームhaccobaとして事業を進めていくことになりました。

酒蔵立ち上げに向けて行ったクラウドファンディングでは、総勢626名と想像を上回る人数の方々に応援していただき、「想いや目指しているところに共感したので、支援させていただきました!一緒にブランドを作れる感覚がいいですね。これが「応援したいく参加したい」という感じか!」日本酒

はもっと自由でいいという考えに共感!花蔵の日本酒、楽しみにしております!」などたくさんのメッセージをいただきました。

今後は、酒蔵を1000年続けていくために、自分たちを取り巻く環境(発酵文化、地域社会、地球環境)の持続可能性を意識して、「酒のつくり手を増やす」活動に力を入れていきたいと考えています。

一つ目は、「自由な醸造ができるまち」をつくること。酒をつくるにあたり、現在日本では様々な制約があります。特区制度や既存の免許制度の活用など行政と連携し、自由な醸造を行うための仕組みをつくることから取り組んでいきたいです。

二つ目は、グローバルな視点で、ローカルなブルワリーをたくさんつくること。南相馬だけでなくいろんな土地で「Craft Sake」を醸し、地域ごとの特色を楽しんでもらいたいです。

私たちのつくってお酒が、みなさんの日常の暮らしをちょっとずつ豊かにしていけるものになったら嬉しいです。



サーフィンの聖地・再び。
海のまちづくりで、新たな福島沿岸部の
価値創造を、南相馬から。

Surfers Village

プロジェクト【2018年2月着任】

一関 宙

いちのせき・はるか

震災でゼロになった「サーフィンの聖地」の完全復活を目指し、福島沿岸部がもつストーリーと海と生きる人々の力を合わせた観光まちづくりに取り組んでいます。

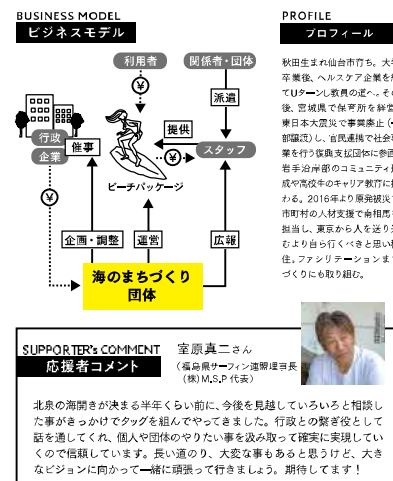
NCL 南相馬の発足当初から約2年は、事務局機能の構築や体制づくりをメインに、各プロジェクトやメンバーをサポートするコーディネーターとして活動していましたが、海と人との時間が動き出す海開きのタイミングで、主体的にこのプロジェクトを進める当事者になりました。震災前から海を盛り上げてきたサーフィン関係者の想いや海のまちの再生に賭けるリーダーの情熱に触れるうち、そういった方たちと共に歩んでいきたいと思うようになり、自分の使命とも繋がったことがきっかけです。

2019年の北条海岸オープン時は、海のまちづくり実行委員会を立ち上げ、プロのサーフィン大会に併せて市民イベントを開催しました。地域の企業やNPO、地元消防団の皆さんにもご協力いただき、市や県とも連携した協働事業によって、9年ぶりに海に賑わいと活気が生まれるという体験をしました。避難先から足運んでくだ

さった住民の方や祖島の復興に想いを寄せる県外のサーフィン関係者が、感慨無量な涙を流されていた姿が今でも強く印象に残っています。

昨年は新型コロナの影響でイベントも大会も中止となってしまいましたが、今年は海水浴期間以外にも分散して小さく楽しめるコミュニティイベントを計画中です。障がいのある方や高齢の方も砂浜におりられるようなバリアフリービーチにも試験的に取り組みます。

今後は、ビーチクリーンによる環境保全事業、溺死事故防止事業、マリンスポーツの啓発・スクール事業等に力を入れ、「あらゆる人が海で有意義な時間を過ごせる場と機会の創出」をミッションに、南相馬の海を総合的にプロデュースしていきます。また、中長期的には、サーフィンができるいわき地区とも連携していきながら、波の良い地域への移住や首都圏との二拠点生活、海でのリモートワークや副業・兼業といったライフスタイルを提案し、福島沿岸部の新しい価値とブランドをつくってきたいです。



駅を世代や地域を超えて
つながれる場に。
前代未聞の「駅を使って遊ぶ」
場づくりで小高を盛り上げる。

Way-Way
プロジェクト【2021年1月着任】

菅野 真人
かんの・まさと

PROFILE
プロフィール

1997年3月生まれ。埼玉県出身。国際基督教
大学卒業後、インターネット広告・PRの会社
に就職し2年間は人営業として勤務。
2020年12月に退社し、2021年1月よりNCL
南相馬にジョイン、南相馬に移住。

SUPPORTER's COMMENT
応援者コメント

佐川一彦さん
(小高でボランティア活動を
されている方)

駅は町のシンボル。旅ボスターのまだなかった待合室をネクストコモ
ンズラボさんが綺麗にして頂いたおかげで、
地域へ情報を発信する駅という場所での活動を行うことができます。
これからも駅を利用する方を季節を表現する絵日記の様な飾りで迎え
られたら嬉しいです。





小高駅の駅守コーディネーターとして、駅を世代や地域を超えた遊び場として活用し、南相馬の魅力を発信する広報・営業拠点となることを目指し活動をはじめています。
着任してからの3ヶ月間は、まずは地域の方に顔を覚えてもらうことを念頭に、NCL南相馬のメンバーや市役所の方の紹介を通じて、地域の人に多く会いました。そこで繋がった方々と、南相馬オリジナルのワークショッププランの販売に力を入れようとしています。移住してきた自分の目線から見ると、南相馬には魅力的な地域コンテンツがあるにも関わらず、それぞれが分散していることをもったいないと感じました。そこで、パッケージ化した商品にできればわかりやすく取っつきやすいのではないか、と仮説をたて、商品化に向けて動いています。前職で培った営業スキルを活かして、BtoBで地域コンテンツの魅力を感じてもらい、「知る」ことから、「行く」「滞在する」「買う」ことにつなげていきたいです。
駅の中での催しや取り組みを充実させるためにも、駅の外に出ることを心がけています。駅の利用者は高校生が大

半なのですが、高校生のニーズと同時に地域のニーズを結び付けて駅が世代を超えた場として使われていくためにも、普段は駅を使っていない方々ともコミュニケーションをとっています。「昔は駅を使っていただけ、いまは使っていない。でも思い入れがあるから、何か聞きたい」というお声を聞いたこともありました。地域のシンボル的な存在だからこそ、関わりたい人はたくさんいらっしゃるの、うまく巻き込みながら、世代や地域を超えた楽しい場を生み出していきたいですね。
実際に小高駅で15名ほどが集まったイベントを行い、高校生・大学生・地域の事業者・東京から来たボランティアなど様々なステークホルダーと共にゲームで盛り上がった時、駅を媒介にして世代や地域を超えた場を作れたという実感をもちました。
今後は、駅に関わってもらえる機会やコンテンツを増やし、少しでも市民の方々のコミュニケーション機会を増やし、地域や場を盛り上げていきたいです。

対人支援、中間支援の
現場から見えてきた未来。
人を育て、やりたいを伸ばし、
まちのポテンシャルを高める。

Coordinator

コーディネーター 【2018年3月着任】

井上 雄大

いのうえ・ゆうだい



PROFILE

プロフィール

長野県安曇野市出身。大学で社会学を学び、社会福祉に対する関心を深める。臨床検査会社でのバックオフィス業務を経て、NCL 南相馬にジョイン。2020 年より、オンライン授業と地域留学をかけた教育プログラム「さとのば大学」の専任講師職に就任。

コーディネーターは、事業を起こすラボメンバーとは少し違った立場で活動しています。ラボメンバーの事業が任期後も自走し、それぞれが望む規模感で続いていくことを目指し、彼らのサポートをします。そして、ラボメンバーの事業が続いていくことがまちの未来に繋がる信じ、これまで活動してきました。

コーディネーターとしてやってきたことは多岐に渡ります。まず最初は、移住してなりおいを生み出すメンバー募集及び採用活動。地域の資源活用や課題解決にフォーカスしたプロジェクトの種をつくり、その募集要件をWEBで拡散、説明会をリアル・オンラインで行い、興味のある方や応募意思のある方に接触しました。採用では、プロジェクトの計画や企画の精度はもちろんですが、地域の人と馴染めるかや、3年以上やりつづける気概があるかといった、人柄を重視しました。結果、6名の起業家メンバー（現在はコーディネーターからの役割変更も含め8名）を採用。全員南相馬へ移住し、活動をはじめています。

その後は、地域への最初のつなぎや行政との調整・折衝、活動の広報をはじめとした、プロジェクト自走に向けた

伴走と事務局運営業務を主に担ってきました。今年度は特に広報に力を入れ、市内全戸配布の「NCL 南相馬シンブン」を年3回発行し、起業家メンバーの活動を市民のみなさまにお伝えするサポートをしています。起業家メンバーからは「シンブンを見て連絡をくださった方が実際にサービスのお客様になった」「市内でシンブンを見た声をかけられた」など嬉しい反響をもらっています。

この事業の先の未来に、挑戦することのハードルが低い地域となることを見据えています。そこでは起業に限らず、自らの内から湧き起こるモチベーションを大事に、自分なりの実践に取り組むことが当たり前でできているでしょう。やりたいことにチャレンジできること、そのチャレンジを応援できること、そんな活動がいずれまちのポテンシャルを高めると 생각합니다。

今後は、起業以外にも地域に関わる人を増やしていくという目的で、オンライン講義と地域留学をかけたあわせ教育プログラム「さとのば大学」の運営や、対人支援の経験を活かした対個人のコーチングや研修プログラム提供にも取り組んでいきます。

History

沿革

2017年にコーディネーターの募集を開始してから約3年間、事務局発足から、南相馬の資源活用や課題解決にフォーカスしたプロジェクトの提案、そして起業家の募集、着任に至るまで、様々な取り組みを地域内外で行ってきました。地域外部に向けた採用を目的としたイベントや、地域に密着したマルシェイベントの開催、住民の方々と交流など、その活動は多岐に渡ります。沿革では、それらの活動の一部をご紹介します。

2017 1月

南相馬市で、「地域おこし協力隊」制度を使った地域課題解決型プロジェクトの導入を検討。田林信哉副市長(2017年1月当時)と、(株)小高ワークスペースの和代表でNext Commons Lab 遠野に視察。

2017 9月

弘前、渚南、西条などと同時に、Next Commons Lab 南相馬のコーディネーター募集開始。未曾有の大災害により、ゼロからのスタートを余儀なくされた地域をフロンティアとして捉える「予測不能な未来を築こう」をコンセプトとして打ち出す。

2018 4月

3人のコーディネーターが着任し、新年度キックオフ。地域資源の活用や、課題の解決にフォーカスしたプロジェクトの設計、及び募集要項の作成に取り組み。

2018 8月

加賀で行われたNext Commons Lab カンファレンスで、全国のNCLメンバーや関係者60名が一堂に会し、これまでの歩みやこれからの活動について意見を交わす。

「カンファレンスとは...」
2018年より年1回開催している、全国のNCLメンバーが一堂に会し、各拠点の委譲やノウハウを共有したり、これからのコミュニティのあり方を議論する場。

2019 4月

1月より、ラボメンバー第一回の着任。委嘱式・オープンラボ第一回を開催。

「オープンラボとは...」
月1回勉強会や講演会などメンバー全員で集まる場。

2019 7月

9年ぶりの再開きに際して、海のまちづくり実行委員会が「南相馬ビーチフェス」を開催。Next Commons Lab 南相馬も事務局や運営で協力。

2019 9月

Next Commons Lab 遠野の活動報告会へ提議。南相馬での活動に活かすため、遠野で最初に着任したメンバーの任期を終えての報告と反省をインプット。

2019 10月

地域の住民の方々との交流を目的に、「Next Commons Lab 南相馬物産展」を小高バイオニクスヴィレッジにて開催。高校生から年配の方まで100名ほどが訪れ、メンバーがかりの地域の物産を楽しんでいただく。

2020 10月

オープンラボ(NCLメンバーの勉強会)で東京電力福島第一原子力発電所へ視察。

2020 11月

小高交流センター Winter Festivalで、Mobi-Arrow Workshop Salon(水谷)・naccoba(佐藤・立川)がワークショップ開催・出店。

2021 3月

3年の任期を満了し、コーディネーター井上 輝大が卒業。

2017 6月

約40名の市役所職員とともに、地域の課題や資源を視察するワークショップを実施。後のプロジェクト設計の材料となる。

2018 6月

ラボメンバーの募集開始。東京での採用説明会開催。各地のNCLが、それぞれの地域の魅力やプロジェクトの特色を説明した。

2018 10月

おだか秋まつりに出店。かたぬきと駄菓子つかみ取りで子どもたちのこころをわしづかみ。

2019 1月

Next Commons Lab 南相馬の拠点でもある、コワーキングスペース兼ゲストハウス機能を備える小高バイオニクスヴィレッジ、プレオープン。

2019 4月

南相馬市、および無印良品 仙台ロフト店と協力し、ハンドメイド作家さんのヤタマルシェやワークショップを中心とした、小高つながる市を開催。桜が見ごろの小高に賑わいを生む。

2019 8月

厚田アートフェス開催。東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた小高区の沿岸部で、アートを活用して環境に生きた証を残し、もう一度海沿いに明るい場所を取り戻そうとする活動に、Next Commons Lab 南相馬のメンバーも運営で協力。

2019 12月

Horse Sharing プロジェクトに新メンバー着任。

遠野で行われた2回目のNext Commons Lab カンファレンス。80名ほどが最初にNCLが立ち上がった土地に集まり、今後の展望やコミュニティのあり方について話し合う。

2020 8月

Community Brewery プロジェクトに新メンバー着任。

2020 9月

中間報告会実施。NCL 南相馬専業主と各プロジェクトの進捗を報告。

2021 1月

3年の任期を満了し、Surfers Vaseプロジェクト 関 留が卒業。

2021 4月

3年の任期を満了し、Artivaプロジェクト 西山 里佳が卒業。



多様な人々が集まる多機能拠点、 小高パイオニアヴィレッジの一日

NCL 南相馬のメンバーが拠点とする、小高パイオニアヴィレッジ（以下、OPV）。ここには、ゲストハウスを利用する宿泊者の方、小高のガラスアセサリーブランド iriser の製作に取り組む主婦の方々、コワーキングスペースで仕事に取り組むフリーランスの方など多種多様な人が集まります。

飲食営業などはしていないので地域の方にはあまり馴染みがない場所かもしれません。そこで今回は、OPV の一日を例に日々どんな人がどんな活動に使っているのかをお伝えできればと思います。

平日朝 8:30、OPV を運営する（株）小高ワーカーズスペースのスタッフの方々が出社してきます。朝一に取り組むのは、まず掃除。毎日多くの人が出入りするため、掃除は欠かせず行います。おや、ずいぶん若い人も掃除をしています。どうやら、さとのぼ大学という地域留学プログラムの受講生が、地域滞在のアルバイトとして清掃を手伝っているようです。

そうこうしている内にガラスワーカーも出社してきます。さっそくガラスアセサリー作りに取り組み、ガスバーナーの「シューシュー」という音が響きはじめます。

10:00、コワーキング施設がオープンします。NCL のメンバーがワークスペースに来て、カタカタと PC 作業を始めました。さとのぼ大学の受講生も掃除を終えて、オンラインで講義を受けているようです。

12:00、施設に香ばしい匂いが漂ってきます。宿泊スペースに長期滞在している方がお昼ご飯を作り始めたようです。匂いにつられるように、ガラスワーカーやスタッフの方々もそれぞれのお弁当を温めて、ひな壇に座って食べ始めます。最近新しくできたお店と週末のイベントについての話が盛り上がっています。

14:00、コワーキングの利用者がゲストを連れて打ち合わせをしにきました。地域の農産物を六次化した商品をどう販売していくかの戦略を練っているようです。コワーキングスペースで作業をしていた NCL のメンバーが、何やらアイデアを持っており、その場で話に加わって打ち合わせが盛り上がります。どうやらコラボの予感！

18:00、OPV の前の庭スペースで炭を燃やし始めました。今日はインターンとして受け入れる大学生が現地入りする日。歓迎の BBQ が開かれるようです。会社員や学生や、フリーランスに起業家、小さいお子さんも混じってお酒やジュースを片手に、話に花を咲かせています。着任したばかりの NCL メンバーも、美味しいお肉とお酒と楽しい会話のおかげでだいぶ打ち解けたようです。懇親会が終わり、片付けを始めました。共有キッチンなので、みんなでキレイにしていけます。また、明日！

いかがでしたでしょうか。NCL メンバーを始めとして、OPV で日々活動する人の様子が少しでも伝われば幸いです。

この冊子を手にとっていただきありがとうございます。はじめて、NCL 南相馬でインターンをさせていただいている前野有咲です。普段は栃木県の大学に通い、まちづくりを学んでいます。さとのぼ大学という地域留学とオンライン授業をかねあわせ教育プログラムの受講と、新型コロナウイルスによる大学の授業のオンライン化がきっかけで、昨年の夏から小高に生活拠点を移し、活動に取り組んできました。

インターンでは、これまで主に広報を担ってきました。地域内外の人に NCL 南相馬の活動を知ってもらうために、何をどう伝えたいのか。届けたい人・媒体によって伝え方や言葉を工夫することを学び、意識し続けた半年間でした。活動報告冊子をはじめとする広報制作物における情報発信だけでなく、様々な人とやりとりをする中でも「伝えること」と向き合い、その難しさを感じつつも、今後社会に出て働く上で糧となる経験をさせていただいたと感じています。

小高、そして南相馬は、自分を知り将来に向けての一步を踏み出すことが出来たきっかけがえのない場所です。自分の幸せとまら

のこれからの可能性を要望することなく追及し続けている方、ビジョンや想いをもって活動に取り組まれている方等、自分のロールモデルとなる生き方・働き方を実践されている方々にたくさん出逢いました。出逢いを通して、地域のよさ・人の想いを伝えたい、地域でいきいきと暮らす人を増やしたいという自分の在りたい姿を見つけ、少しずつ行動に移すことが出来ました。これからも、南相馬の人の魅力、地域の魅力を自分の視点から伝えていきたいと思っています。

自分が一步を踏み出すことが出来たのは、この地域の多くの方々が自分に関わってくれたからだと強く思います。私は 4 月から小高に滞在していますので、地域で会った際や活動に関わらせていただく機会がありましたら、どうぞ宜しくお願い致します。

最後になりましたが、この活動報告冊子を作成するにあたり、ご協力して下さった地域の方々、サポート・指導してくださった NCL のみなさん、本当にありがとうございました。



前野有咲

まえの・ありさ
【インターン生】

1999 年、山形・鶴岡市生。早稲田大学地域デザイン科学部 4 年生。大学 3 年生の夏に、さとのぼ大学夏季集中講座で南相馬に地域留学。講座終了後も南相馬のシェアハウスに暮らしながら、大学のオンライン授業を受けたり、アルバイト、地域でのボランティアやインターンに参加している。

これまでの配布物はこちらで
データダウンロードいただけます
<https://owb.jp/service/nextcommonslib/>



NCL 南相馬フェイスブック
<https://www.facebook.com/nclminamisoma/>



ネクストコモンズラボ web サイト
<https://nextcommonslib.jp/network/minamisoma/>



NCL 南相馬 Instagram
ユーザーネーム：
ncl_minamisoma



発行元：南相馬市（担当：経済部観光交流課）
南相馬市地域おこし協力隊募集及び支援業務委託事業
受託者：株式会社小高ワーカーズスペース

編集・制作：Next Commons Lab 南相馬
デザイン：西山里佳（marutti inc.）
写真：鈴木楓蔵
発行日：2021 年 3 月

【問い合わせ】
Next Commons Lab 南相馬事務局
〒979-2124 福島県南相馬市小高区本町 1-87
小高パイオニアヴィレッジ
TEL：0244-26-4665

Next Commons Lab
南 相 馬



<https://nextcommonslib.jp/network/minamisoma/>